

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

ニッタイダイ 2006年 春

12



CONTENTS

特集1 ■大学改革宣言——1

～新時代の日体大教育を創出する11の大学改革構想案～
学長メッセージ

特集2 ■新執行部メッセージ——5

特集3 ■TORINO 2006——9

Special Talk ●OB対談 [高崎利明×山本佳司]——11

高校スポーツの頂点を極めた指導とは? (ラグビー×サッカー)

大学院の紹介 ●3学系の最新ニュース&リポート——13

NEWS ●05年度下半期ニュース——15

クラブ情報 ●05年度下半期クラブの主な大会成績——17

INFORMATION ●dot.NITTAIDAI 事務機構改編——18

SAJ18承認第0461号

dot.NITTAIDAI
I N F O R M A T I O N

12

■学年暦 (平成18年・2006年度上半期)

月	日(曜日)	行 事
4	3(月)	入学式 (横浜・健志台キャンパス)
	4(火)～8(土)	新入生オリエンテーション (健康診断・スポーツテスト、学生証手続、履修申告、他) 在学生 健康診断、履修申告確認等
	10(月)	前期授業開始
	10(月)～ 10(月)～14(金) 15(土) 22(土)	大学 義護実習 (健康学科義護コース4年) [5/13(土)まで] 履修申告確認期間 防災訓練及び生活指導等の行事 介護等体験生 前指導講習会 (短大体育科1年・その他)
5	1(月)	自宅研修日
	2(火)	休業日 (11/3の振替)
6	5/29(月)～6/24(土)	教育実習 (大学4年・短大体育科2年)
	6/5(月)～6/24(土)	教育実習2 (短大保育科)
7	2(日)～5(水)	短大 キャンプ実習 (保育科)
	2(日)～15(土)	大学 海浜実習 (1年)
	1(火)～9(日)	短大 体験学習 (1年) 1(火)～5(水) 2(日)～9(日)
	3(月)～9(日)	大学 マリンスポーツ理論・実習 (社会体育学科3年)
8	4(火)～7(金)	大学 ゴルフ理論・実習 (社会体育学科4年)
	5(水)～15(土)	大学 キャンプ指導実習 (体育・健康・武道学科3年)
	9(日)～15(土)	大学 ゴルフ指導実習 (体育学科2年) 第1・2回 (栗石)
	11(火)～14(金)	大学 水泳指導実習・日赤水上安全法コース (体育学科3年)
9	18(火)～22(土)	短大 国際交流実習 (体育科2年)
	22(土)	前期定期試験期間 (大学・短大体育科、保育科)
	24(月)～29(土)	補講・追試験・再試験期間 (大学・短大体育科、保育科)
	31(月)～	大学 看護臨床実習 (健康学科義護コース3年) [9/1(金)まで]
10	1(火)～3(木)	前期定期試験終了 (試験を含む) (短大幼児教育 保育科)
	4(金)～7(月)	補講・追試験・再試験期間 (短大幼児教育 保育科)
	8(火)～	大学 社会教育実習 (社会体育学科3年) [10/1(日)まで]
	30(水)～9/9(土)	大学 キャンプ理論・実習 (社会体育学科2年) (8/30(水)～9/1(金) 学内実習、3(日)～9(土) 現地実習)
9	19(火)	後学期授業開始 (短大幼児教育 保育科)
	20(水)	※ただし、19(火)は休業日(11/6の振替)
	20(水)～29(金)	開学記念日
	21(木)	大学 水泳指導実習・ダイビングコース (体育学科3年)
10	2(月)	1(日) 20(水)～23(土) 2(日) 23(土)～26(火)
	2(月)～13(金)	3(日) 26(火)～29(金) ホームルーム・成績ガイダンス (短大幼児教育 保育科) 大学 ゴルフ指導実習 (体育学科2年) 第3回 (菅平)
10	2(月)	後学期授業開始 (大学・短大体育科、保育科)
	2(月)～13(金)	ホームルーム・成績ガイダンス (大学・短大体育科、保育科)

注) 実習等の期間については、変更することがあります。

■日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構奨学金の応募の機会を基本的に年に一度です。募集説明会の日時等は
掲示で通知しますので、希望者は必ず確認をして、応募の機会を逃さないようにしてください。
なお、家計を支えている人の失職、死亡、不慮の事故、災害などによって家計が急変した場合は「緊急採用」「応急採用」がありますので、事情が生じたときには早急に東京・世田谷キャンパス学生生活課、横浜・健志台キャンパス健志台教学課に相談をしてください。

問い合わせ先 東京・世田谷キャンパス 学生生活課 03-5706-0904
横浜・健志台キャンパス 健志台教学課 045-963-7900

■平成18年度新採用教員紹介



久保 健 (くぼ たけし)
[短大:教授]
体育科 教養等Ⅱ教職
東京教育大学大学院体育学研究
科修士課程修了
体育学修士



平沼 憲治 (ひらぬま けんじ)
[大学:教授]
健康学科 スポーツ医学
産業医科大学 医学部医学科卒業
医学博士



奥泉 香 (おくづみ かおり)
[短大:教授]
幼児教育保育科 幼児教育専門
千葉大学大学院教育学研究科修了
教育学修士



笠井 里津子 (かさい りつこ)
[短大:助教授]
体育科 体育科専門3
日本体育大学 体育学部体育学科卒業



岡本 美和子 (おかもと みわこ)
[短大:助教授]
幼児教育保育科 保育専門
東京医科歯科大学大学院保健衛生
学研究科博士 後期課程修了見込
看護学修士



山本 博 (やまもと ひろし)
[短大:助教授]
体育科 体育科専門3
日本体育大学 体育学部社会体育学
科卒業



青柳 徹 (あおやなぎ とおる)
[短大:講師]
体育科 体育科専門3
筑波大学大学院修士課程体育研究
科修了
体育修士



伊藤 由美子 (いとう ゆみこ)
[短大:講師]
体育科 体育科専門3
日本体育大学大学院体育科学研究
科博士前期課程修了
体育科学修士



小林 史明 (こばやし ふみあき)
[大学:助手]
体育学科 運動方法(陸上)
日本体育大学大学院体育科学研究
科博士前期課程修了
体育科学修士

【編集後記】 ●2007年大学全入時代をむかえ、本学は他の追随を許さない、力魅ある大学づくりを目指し、日本体育大学改革宣言をしました。本学の建学の精神、理念を中心軸に据えて、これらなされる改革案を掲載しました。東京・世田谷キャンパス再開後も格別励み、改革の勢いは更に増すことでしょう。●高校スポーツ界のトップを極めた宮崎、山本両監督の対談インタビュー取材の難に強く感じたのは、両氏共に、揺るがない信念と、研究に基づけた教育・指導がしっかりと確立され、常に世界を見据えた指導を意図していることです。本学学生の多くが目指している将来像のお手本になるのではないですか。●新入生の皆さん、今年は195輪に始まり、WBC、サッカーW杯など世界的なスポーツの祭典が多い一年です。この日体大で、自らの目標に向かって多くのことを学び、スポーツという名の人類共通のこばを世界中に伝え、スポーツする感動を共有していきましょう。

日体大の未来を創る
「体育・スポーツの総合大学」をめざし、
オール日体大のエネルギーを集結して、
11の大学改革構想案の実現を図ります。

学 長
伊藤 孝



学長メッセージ

我が国の大学は今、戦後の新制大学発足期以来の大きな変革期の直中にあります。18歳人口の減少による「大学全入時代」の到来と大学間競争の激化、大学の教育力が社会から評価される認証評価の義務化、さらには、「知識基盤社会」の到来を展望した文部科学省による専門職大学院制度の発足など、大学を取りまく状況は一変し、多くの大学が生き残りをかけ、社会の要請に応えるべく大学改革を推し進めているところであります。

こうした変革期にあつて、本学も生き残りをかけ、昨年、第二次近未来構想協議会を設置し、新時代の要請に応える大学の使命と将来展望、そしてそれを実現させる改革案を策定すべく検討してまいりました。検討の結果まとめられたものが、ビジョン、ミッションを含む「11の大学改革構想案」です。

この構想案は、知識基盤社会をリードするスポーツの総合大学をめざした新時代の日体大教育を創出する大学改革宣言でもあります。

構想案の中核は、大学院改革と連携した体育学部の改組転換を通して、複数学部による体育・スポーツの総合大学化を図る構想です。2つのキャンパスの特性を活かして、横浜・健志台には「スポーツ競技力向上の学部」を、東京・世田谷には「健康福祉系・スポーツ文化社会科学系の学部」を置くことを考えております。大学院改革に関しては、改組して研究大学院と専門職大学院の設置を構想しています。

さらに構想を実現するための前提となる施設整備面については「東京・世田谷キャンパス再開発計画」があります。5ヵ年計画で既存の建物を順次、新しく建て替えていく予定です。現在、基本設計・計画が練られており、本年9月には着工に入る予定です。完成の暁には、都市型・高度情報型の素晴らしいキャンパスに生まれ変わります。工事期間中は学生諸君に多大な迷惑をおかけすることになりますが、暫くの間のご協力をお願いする次第です。

「11の大学改革構想案」は、10年間ほどのスパンを想定した構想で人・資金も膨大に要し、具現化するのは容易ではありません。そのため、改革の優先順位と作業工程を決めるロードマップを作成し、さらには、学長がリーダーシップを持って遂行できるよう、副学長を2人置くなどの学内諸制度も改革しました。全ては大学改革の実現のためです。

いよいよこの4月より、学長を本部長とする「マニフェスト推進本部（仮称）」を立ち上げ、11構想案に係るプロジェクトを発足させて構想の実現に着手します。この改革を必ず成功させるべく、新たに発足した新執行部の方々とともに、教職員・学生・保護者・同窓生のオール日体大のエネルギーを集結し、ロードマップにそって着実に改革を遂行していく覚悟です。

※【知識基盤社会 (knowledge-based society)】：あらゆる活動が高度な知識や情報を直接的な基盤とする社会。文部科学省は、21世紀は高度情報化と国際化の中で「知識基盤社会」化が進むとの認識で、国際的競争社会で生き抜くために「創造的活力に富んだ知識基盤社会を支える高等教育の改革」を提案している（中央教育審議会「わが国の高等教育の将来像」）

新時代の日体大教育を創出する 11改革構想案

（知識基盤社会をリードする体育・スポーツの総合大学をめざして）

多くの大学が社会の要請に応えるべく大学改革を推し進めている変革期にあつて、本学も伊藤孝学長のもと、新時代の要請に応えるビジョン、ミッションを含む大学改革案の11項目にわたる構想を策定した。

本素案は、知識基盤社会をリードするスポーツの総合大学をめざした11の改革構想案から成る大学改革案で、本学の110有余年に及ぶ歴史と伝統を土台として、新たにスポーツの総合大学としての歴史を積み重ねるべく策定されたものである。

この構想の実現に向け、本年4月より伊藤孝学長を本部長とする「マニフェスト推進本部（仮称）」を発足させ、11構想とプロジェクトの各作業部会をスタートさせる予定である。折しも新役職者が選出され、伊藤執行部はマニフェスト実現に向けて船出する。日体大の未来を創る大学改革案が全学で共有されることを願って、今回は11の大学改革構想案とその遂行をミッションとする新執行部を特集した。



東京・世田谷キャンパス正面イメージ

「11の大学改革構想案」

～時代と社会の要請に応え、ビジョンを実現するために～

[特集1] 大学改革宣言！

建学の精神 『^{たい} ^{いく} ^ふ ^{きょう} ^の ^{もとい} 體育富強之基』

理念

『體育富強之基』について(理念)
真に豊かな国家・社会を実現するためには、
体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、
健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を
数多く育成することが肝要である。

Mission

ミッション(社会的使命)

1. スポーツ科学全般の先駆的研究およびその実践を通じて、人間の心身が有する可能性を総合的に究明し、国民の体力向上、ひいては国際的な競技力向上に貢献する。
2. 我が国のスポーツ文化の深化・発展に努めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与する。
3. トップアスリートはもとより、地域社会において指導者やリーダーとして活躍しうる人材を輩出し、健康で豊かな生涯スポーツ社会を構築するための原動力となる。

Vision

ヴィジョン(目標)

日本体育大学は、独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、我が国の体育・スポーツ界ならびに来るべき知識基盤社会をリードする大学を目指す。また同時に、心身ともに逞しく、明朗快活で、自らが選択した職種の現場において強い即戦力として活躍できる人材の育成を図る。

本学のヴィジョン(目標)を
具現化すべく、
教授会において、
11の大学改革構想案
が決定した。

構想

1

【2キャンパス構想】

経営資源を生かした2キャンパス体制で、
体育・スポーツの総合大学をめざす

構想

2

【未来型学部・学科構想】

スポーツの新たな価値を創造し、これからの
知識基盤社会に応える複数学部構想

構想

3

【新大学院構想】

知識基盤社会の要請に応える、
大学院—大学—貫構想

構想

4

【新スポーツ局構想】

世界的レベルのトップアスリートを育成・輩出する
とともに、情報・人材環境のエネルギー源

構想

5

【地域社会との連携構想】

地域社会と連携し、
互いに活性化する大学をめざす

構想

6

【指定管理者制度の活用構想】

日体大の明日を切り拓く、
指定管理者制度を活用した事業戦略

構想

7

【総合スポーツ 科学研究センター構想】

スポーツ科学の総合的發展を促す

構想

8

【スポーツ図書館・博物館構想】

多角的媒体による情報・データの発着点に

構想

9

【キャリア教育支援センター 設置構想】

日体大の学生に各界での活躍の道を拓く

構想

11

【国際化プログラム構想】

世界と日本のスポーツをつなぐ
国際化プログラム

構想

10

【アドミッション(入試広報) センター(仮称)設置構想】

有能な人材を日体大に誘う構想

体育専攻科長
山田 保

教員養成・免許制度改革推進の流れを捉えて。

本学体育専攻科は1971年に開設され、修了者（一種免許状既修得者）には専修免許状が授与されてきています。しかしながら近年、教員養成制度・免許制度改革に係る論議が進められ、力量ある教員の養成のために、教員養成に特化した専門職大学院としての枠組み（「教職大学院」制度）の創設が現実問題になってきています。そしてこの教職大学院に教員免許状を保有しないで入学する学生については、学部・科目等履修生制度の活用や、教職特別課程（教職に関する科目の単位を修得させるために大学が設置する修業年限を1年とする課程）での履修を可能にするなどの措置が検討されており、専攻科を取り巻く環境が大きく変化してきていることを真剣に受け止める必要があります。世田谷区や横浜市との連携にもとづく学校現場での活動を組み込むなどのカリキュラムの改編はもとより、本学の専攻科が今後取るべき方向性をどこに求めるのか、早急な検討が必要と考えます。

体育学科長
伊藤 直樹

今年度より、職業観を育てるキャリア教育を新入生全員に実施します。

体育学科は4学科の中で最も学生数が多く、日体大の屋台骨ともいえる歴史ある学科なので、より時代のニーズに応えるよう充実を図っていきたくと考えています。その一つとして、キャリア教育の実施があります。1年次から就職や職業を意識できるように、今年度から新入生オリエンテーション時に新入生全員にキャリア教育を実施します。就職対策に関しては、クラブ・サークル活動で参加できない学生のために、近年は昼休みや授業の空き時間を活用した就職対策セミナーを実施するようにしています。

さらなる競技力の向上やトップアスリートに対する処遇など、前任者からの検討課題を継承しつつ、学科教員の知恵を結集して「1の大学改革構想案」の実現に向けて協力して進めていきたくと思っています。

健康学科長
小早川 ゆり

社会福祉士の合格者数を増やすための支援対策を講じていきたい。

健康学科では、子どもたちの健やかな発育と高齢者の和やかな人生、社会人の壮健な活動を支援することを目的に、養護と社会福祉の2コースが設けられています。所定の単位取得後、養護コースでは養護と保健体育の教員免許を取得できる一方、社会福祉コースでは保健体育の教員免許は取得できますが、社会福祉士の資格は国家試験の受験資格を得るまでです。そのため、難関の国家試験を突破できるよう、支援対策を強化し、合格者をより多く送り出していきたいと思っています。

現在、国民の健康への関心・希求が高まる中、健康指導のスタッフとして子どもたちや成人、高齢者の健康、福祉に携わる人材が一層必要とされています。養護・社会福祉の現場で必要とされる教養や専門的知識を身につけることができるよう指導に当たりたいと思っています。

武道学科長
榑田 大蔵

東京・世田谷キャンパス再開発の完成と同時に武道学科を充実させていきたい。

武道学科は、2000年より「伝統芸能コース」と「武道教育コース」の2コースに分けて武道の国際的な視野を持った指導者を養成しています。両コースとも海外での「伝統文化交流実習」を課し、日本の伝統文化である武道・舞踊の公演などを通して新時代にふさわしい国際感覚を磨いてもらうことにしています。「伝統芸能交流実習」は今年、オーストラリアで4回目を実施しましたが、現地における評価は年々上がっています。

最大の懸案だった東京・世田谷キャンパス再開発がようやくスタートします。施設の充実は最優先課題です。まず、弓道場の建設を要望し、武道学科をさらに充実させていきたいと思っています。開設7年目となる伝統芸能コースは、一芸をもって世に立てる人材の輩出を願っています。将来構想としては、武道流派の起源とされる弓道を中心に武道学科を充実させたいと考えています。

社会体育学科長
小泉 紀雄

幅広い生涯スポーツの指導者養成をめざして。

社会体育学科は03年に野外活動系のカリキュラムを改正し野外教育・活動の充実を図ってきました。現在の最大の課題は出口問題で、本学ではインターンシップ制度を取り入れた「生涯スポーツ現場実習」という体験学習プログラムを開設し、行政や社会教育・小中学校・民間スポーツ企業・野外スポーツ関連企業などへ派遣していますが、就職活動を始める3～4年生の時期では遅いと感じております。

今後の方向として、インターンシップ体験学習は2～3年生の前半に実施できるように取り組むとともに、人々の健康と生きるよろこびを指導できる生涯スポーツ指導者育成と、就職対策を意識したプログラムにしていきたいと考えています。また、学生たちが一番目指している社会教育主事は、公務員採用試験がネックで、その対策を講ずる必要を痛感しています。

学生の将来の進路を広げる上でも、「1の大学改革構想案」に盛り込まれた指定管理者制度の活用を考えています。

副学長(企画・管理・運営担当)
落合 卓四郎日体大の未来を創る
新執行部からのメッセージ

長年の懸案だった東京・世田谷キャンパスの再開発がようやく動き出した。改革に向け、この4月より伊藤学長を本部長とする「マニフェスト推進本部（仮称）」も立ち上がる。体育・スポーツの総合大学を目指した本学の大学改革が、今まさにスタートしたといえる。

そうし本学の改革が動き出す中、伊藤学長のもと大学・短大の新役職者が決定した。次の100年を切り拓く各役職者に直接インタビューを試み、それぞれの役職が抱えている現状の課題と大学改革にかける熱い想いを語っていただいた

日体大モデルと呼べる教育システムを創り出したい。

大学間の競争が激化している現在、大学改革を進める上で、大学のガバナンスの確立と意志決定の迅速さは大学運営にとって喫緊の課題です。そのため本学では、学長がリーダーシップを発揮して意志決定を迅速に下せる体制を構築するために、副学長を2人置き、大学運営のあり方を見直すことにしました。17ある各種委員会の委員長に2人の副学長が分担して就くのはその一例です。これにより、学長一教授会の相互の意見・情報が双方向で正確かつ迅速に伝わり、意志決定のプロセスが明確になりました。

当面の課題は、東京・世田谷キャンパスの再開発と「大学改革構想案」に盛り込まれた11項目の大綱の肉付け、そしてそれらに不可欠な教育システムの抜本的見直しを図ることです。在任中に、指定管理者制度を活用したインターンシップなどキャリア教育を柱とする日体大モデルのようなものを教育システムの中に創り出したと思っています。大変な時期ですが、学長を補佐して大学運営の責任の一端を担っていきたくと思います。

大学改革を一気に進めるために、事務機構を大きく改編しました。

日本の多くの大学が大学改革を推し進めている中、本学も新しい時代にふさわしい体育・スポーツの総合大学をめざし、最大の懸案だった東京・世田谷キャンパスの再開発がようやく動き出しました。再開発計画は55年間で完成しますが、それに合わせて11構想からなる大学改革構想案をスタートできるよう準備しなければなりません。そのため、改革を遅滞なく一気に遂行するために、サポート役として企画・管理・運営担当と教学・学生生活担当の2人の副学長が置かれました。また事務機構も、教員から職員に権限を委譲して、職員が責任を持って業務を遂行できるよう改編しました。

東京・世田谷キャンパス再開発の完遂とマニフェスト実現に向け、学長を補佐してその一翼を担っていきたくと思っています。同時に教学・学生生活担当の副学長として、学生たちが満足した学生生活を送れるように、学生の目線に立ってサポートしていきたくと思います。

大学院を改組して、博士前期課程(修士課程)をアスリート・社会人にも広げたい。

基本的に大学院は研究者の養成機関ですが、博士前期課程(修士課程)では、研究者以外のさまざまな道に進む者(企業、教職、自治体などに就職し貢献する者)も学んでいます。定員割れをする大学院もある中、本学博士前期課程への今年度の志願者数は過去最高で、特にアスリートが多く志願しました。

文部科学省では大学院教育の強化方針の一つとして専門職大学院を上げていますが、本学も「1の大学改革構想案」の大学院構想に見られるように、大学院を改組して専門職大学院の設置を構想しています。今後、高齢社会に対応してますます必要とされる体育・スポーツの指導者や健康科学の専門家など、専門職としてレベルの高い人材を養成するの役割の一つになってくるからです。現職教員のリカレント教育を含め、博士前期課程をアスリート・社会人にも広げたいと考えています。

体育学部長
谷釜 了正

知識基盤社会の到来を迎え、多くの優れた学生を大学院に送り出したい。

文部科学省は21世紀の日本が選択すべき社会を「知識基盤社会」と位置づけ、4年制大学(学部)教育を基礎にして、さらに大学院教育を強化する方針を打ち出しています。本学も学長のリーダーシップをもって新たな大学院教育の方針を打ち出し、学部と大学院との一貫教育を促進したいと考えます。新入生の皆さんには、21世紀の知識基盤社会をリードできる力を本学で身につけていただくことを願っています。私は、大学院の門戸を広げてもらい、多くの優れた学生を大学院に送り出したいと考えています。

本学は、東京・世田谷と横浜・健志台との2つのキャンパスを持っています。今年度からは東京・世田谷キャンパスの再開発に着手しますので、授業は、横浜・健志台キャンパスが中心に展開されます。皆さんには不自由をかけることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。不自由な中でもできるだけ便宜を図れるよう、教職員の皆さんの協力を得てまいりたいと考えています。

体育研究所長
西條 修光

総合スポーツ科学研究センター構想を先取りする形の共同研究の場としたい。

体育研究所は研究とサービスを2本柱にしていますが、意外にその活動内容は学内外に知られていません。そこで昨年、学生・教員や地域の人々にアピールするため、学内では研究所ニュースの発行やセミナーを3回実施し、学外では地域貢献活動の取り組みとして横浜市青葉区との共催で「スポーツのススメ」をテーマに公開講座を2回開催しました。引き続き今年も開催したいと思っています。

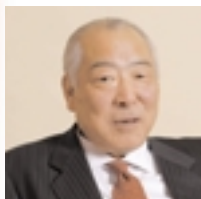
体育研究所が設立された44年前は、学生が研究・実験・ゼミをできるのはここだけでした。多くが研究者として巣立っていきましたが、引き続き学生を育てる機能も果たしていきたいと思っています。さらに、当研究所は大学の総合的な研究活動の場として位置づけられており、「11の大学改革構想案」の「総合スポーツ科学研究センター構想」を先取りする形で、共通テーマを設定し、共同研究の場として提供していきたいと思っています。

スポーツトレーニングセンター所長
船渡 和男

将来は“コンプリヘンシブ トレーニング サポート(CTS)”でアスリートを全面的に支援したい。

当センターの活動の重要な使命として、施設管理とプログラムに則った指導がありますが、両キャンパスとも少人数のスタッフ運営のため指導できないのが実状でした。しかし、今年度から毎年、新入生に実施している「スポーツテスト」のデータ結果を学生一人一人にフィードバックしたいと思っています。意識改革を目指し、1,450人全員の測定値を統計処理して偏差値にし、全体・学科別の順位、総合得点を出します。

また、「トレーニングセンター・カンファレンス」の開催を検討しています。「私が歩んできたトレーニング」のようなテーマで大学内外の有名アスリートに自己の経験を語ってもらう企画です。将来は、医学・科学・栄養・メンタルなどの面から包括的な支援ができる「コンプリヘンシブ トレーニング サポート(CTS)」を目指したいと思っています。各専門家との協力体制でアスリートを全面的に支援していく構想です。

スポーツ局長
清水 義明

スポーツ局の法人化を目指し、『11の大学改革構想案』の実現を図りたい。

スポーツ局の重要な役割として、競技スポーツ活動における重点強化種目および、重点強化選手の競技力の向上を図るための事業があります。重点強化種目は平成17年度に引き続き8種目ですが、重点強化選手は昨年より4名増え25名になりました。今後は強化種目をもう少し増やし、強化選手も40名位まで増やしたいと思っています。

トップアスリート育成には財政的支援が不可欠ですが、現状では限界があります。今後は、グッズ類の販売など収益事業も視野に、外部資金導入の道をつくる必要があります。将来的には、『11の大学改革構想案』で検討されているように、スポーツ局の法人化(事業法人や財団法人など)を目指していきたいと思っています。

健康管理センター所長
大野 誠

キャンパス内全面禁煙の徹底を目指して、さらに対策を強化していきます。

健康増進法の施行を受け、健康と体力増進をミッションとする本学は、受動喫煙防止義務を遵守して、05年4月より、全国の大学に先駆けてキャンパス内全面禁煙を実施しました。難しいとされる全面禁煙を一気に遂行できたのも、スポーツマンとしてルールを守ることに慣れている本学学生ならばこそだと思います。しかしながら、まだ習慣的に喫煙している学生や教職員もおりますので、さらに対策を強化していきたいと思ひます。

定期健康診断の実施をはじめ、トータルな健康管理の施策を立案実行する組織として、当センターは今後も本学教職員の健康の保持、増進に努めていきたいと思ひます。今年度は、トレーニングを積極的に一般人も扱えるようになった「AED(自動体外式除細動器)」の設置台数をキャンパス内にさらに増やすことと、教職員を対象としたセンター主催の「AED」の講習会を開催したいと思っています。

寮監長
西山 哲成

寮の役割を明確に位置づけ、強化していきます。

本学には運動部宿寮と学生寮2つのタイプがあります。前者は大学スポーツマンに相応しい生活の場を提供することを目的にしています。後者は学生自治を尊重した集団生活を通して責任感、協調性、上下関係、体育大生としての礼儀正しさなどの精神面を学ぶとともに、形ある伝統としてエッセンス、在学体育、集団行動を学び、継承することを目的にしています。実際、入学直後の新入生オリエンテーションの中で、新入生が学ぶこれらの伝統技の指導は、学生寮に住む上級生が中心になっています。今後、大学は本学特有の生活環境や教育の場としての寮の役割を明確に位置づけ、それぞれの目的に向かって整備、強化していく予定です。

また、寮の「危機管理マニュアル」を作成し、今年度に配布する予定です。今後の強化の課題としては、学内体制として寮関連委員会の発足を予定しています。

教養・教職科長
楠本 恭久

将来的に、教員採用試験を目指す学生だけのクラスを別に編成したい。

本学の学生の大半は教員志望で教職科目履修しますが、教員免許の資格を取得しても、採用枠の狭さから採用試験合格までにはいたりません。とはいえ、初心を貫いて難関を目指す学生も多く、何とか合格者を2桁台に引き上げたいのが我々の思いです。そのため、教養・教職科では平成19年度を目途に、教員採用試験受験志望者のクラス編成を検討し始めたところです。採用試験を目指した学生でクラスを編成することにより、互いに切磋琢磨、励まし合い、情報交換もでき、効率的な教育ができると考えているからです。2クラス編成を検討しています。

一方、教養科目は、現在、大人数での授業ですが、英語教育は「11の大学改革構想案」の国際化プログラムに構想されているように、少人数クラスでの開講を目指します。東京・世田谷キャンパス再開発計画が完成すれば、それが可能になると思ひます。

短期大学部長
阿部 茂明

本学短大の魅力をより強く打ち出していきたい。

多くの短大が定員割れを起こしている状況の中で、本学は一貫して多くの学生を迎えることができています。これは、2年間を通して、きめ細かい指導を徹底している結果だと確信しています。こうした伝統をしっかりと維持し、さらに本学短大の魅力をより打ち出すために、体育科では本年度より学部編入への学内推薦制度を導入するとともに、生涯スポーツと学校体育のコース区分を無くしてどちらの履修科目も履修できるよう、カリキュラムを変更しました。

また、幼稚園教諭と保育士の2つの資格取得が可能となる「幼児教育保育科」が本年度からスタートします。幼稚園と保育園の機能を併せ持つ幼保一体型施設の「認定子ども園」の創設法案が国会に提出されたことから、今後、認定子ども園を視野に入れて、2つの資格取得を目指す受験生が増えることが予想されます。

体育科長
菅原 勲

体育科のあり方を検討し、国際交流実習やカリキュラムを見直します。

体育科での特徴的な教育課程として「体験学習」と「国際交流実習」がありますが、その見直しを検討しています。国際交流実習は従来、生涯スポーツコースだけで実施していましたが、本年度よりコースの垣根を取り払い、スポーツ体育施設の見学やトレーニングを学ぶツアーコースを増やし、学校体育コースも参加できるものにします。また、これまで保育科と一緒に実施してきた体験学習は、平成19年度より体育科だけの実施とします。

また体育科は、今年、90名の学生が学部編入したように、編入志望の強い学生が多いという特徴があります。カリキュラムは、学部カリキュラムに添う形で編入時に負担とならないよう整合されていますが、自由選択科目は取得しても学部での単位として認定されませんでした。そのため、カリキュラムを見直し、スキーやスケート等の実習科目に関しては、本年度より、編入時に学部での単位として認定されるようにします。

幼児教育保育科長
時本 久美子

保育士となる資格を取得できるようになり、旧保育科は改組一新しました。

保育士資格が取得できる1年課程の保育専攻科が新設され、本年4月より、保育科が幼児教育保育科に改組一新されました。これで、念願だった幼稚園教諭と保育士の2つの資格が本学でも取得できるようになります。とはいえ、どんな保育者を育成するのか、本学教員の正念場になります。新時代のニーズに合った保育者を育てるとともに、目的意識が明確で周囲への配慮もできる保育者、そして、日々大らかしく笑顔で明るく元気で、子どもたちと一緒に身体を動かせる保育者を育てていきたいと考えています。

カリキュラムも改編され、1年より保育所の実習が始まるなど授業内容が濃密になります。私たち教員も、今まで以上に学生とのコミュニケーションを高めるとともに、学生の学習意欲を高め、目的意識をもって取り組めるような環境づくりに努めたいと思ひます。

図書館長
秋山 庵然

図書館＝知の世界へのGATEです。

現在の大学の図書館は、その規模・環境等からいうと、必ずしも満足すべきものではありませんが、スポーツ関係の蔵書の質の高さと、司書・職員サービスの良さがそれをカバーしています。

東京・世田谷キャンパス再開発も決まり、近々工事も始まることでしょう。完成すれば図書館は知の空間として、これまで以上にその真価を発揮することになります。とはいえ、完成するまで我慢しているわけにもいきません。現在の状況の中で、学生諸君がより利用しやすいように、できることから改善していきたいと思ひます。また最近、図書館には非紙媒体の「図書」「資料」が増えてきています(これも重要です)が、紙媒体の図書(従来の書籍)に直接触れてみることは大変重要なことです。本学の図書館は(他の図書館では見ることのできない)スポーツ関係の稀種本を数多く所蔵しています。春です。図書館に入って、知の世界の花見としゃれこみましょう。

TORINO 2006

Olympic Winter Games 10 - 26 February
Paralympic Winter Games 10 - 19 March

第20回オリンピック冬季競技トリノ大会 日体大関係者

●選手

競技名	名 前	所 属
アルペンスキー	星 瑞枝 (ほし みずえ)	体育学科2年
スピードスケート	中嶋 敬春 (なかじま たかはる)	日本体育大学研究員 (H17年体育学科卒業)

●スタッフ

競技名/役職	名 前	所 属	備 考
アルペンスキー監督	山中 茂 (やまなか しげる)	雄山高校	S49年 体育学科卒業
スノーボード監督	佐々木 峻 (ささき たかし)	(株) 天山リゾート	S41年 体育学科卒業
スピードスケートコーチ	青柳 徹 (あおやなぎ とおる)	JOC専任コーチ	H3年 体育学科卒業
トリノ本部	山崎 貴子 (やまざき たかこ)	日本オリンピック委員会	H8年 体育学科卒業

※所属は2006年2月時点のものです。

●トリノ冬季五輪 競技結果

スキーアルペン
女子回転
星 瑞枝 27位 1分33秒38

スピードスケート
男子1000m
中嶋 敬春 27位 1分11秒10

男子1500m
中嶋 敬春 38位 1分51秒61

[トリノ冬季パラリンピック2006]

2006年トリノ冬季パラリンピック競技大会が3月10日～19日まで開催された。
日体大からは、小池岳太選手とスタッフ4名が選出され、活躍した。



課題を克服し、
バンクーバーでは
絶対勝ちます！

小池岳太

パラリンピックに出場し、世界のレベルの高さをまざまざと見せつけられました。私が出場したスタンディング(立位)クラスは激戦区で、上位を占めたのは、心技体の全てが揃った選手でした。私は、まだまだ本場に未熟なので、思いっきり世界に挑戦する事を心掛けてレースに臨みましたが、やはり実力不足であり、思いっきり失敗しました。しかし、自分の今のレベルと、今後四年間の課題がはっきりと分かったので、次回優勝を目指して、生活の全てをスキーの為に注ぎます！バンクーバーでは絶対勝ちます！

2002年4月、日体大に入学と同時に高校時代から続いていたサッカー部に入部。しかし、同年10月、オートバイでアルバイト先に向かう途中、対向車と衝突する事故に遭い、左腕は動かなくなつた。
事故後、野村一路前教授(日本障害者スキー連盟常任理事)に勧められたのがきっかけで、「世界を目指す」ことに。事故後も体力強化のため、サッカー部の練習を続けたほか、強い体力と精神力を兼ね備えたアスリート。1982年生まれ。長野県立下諏訪向陽高校出身。2006年3月体育学科卒業。



男子スーパー大回転スタンディング＝セストリエール(小池岳太) 写真提供・共同通信社

トリノ冬季パラリンピック2006 日体大関係者

●選手

競技名	名 前	所 属	カテゴリー(クラス)
アルペンスキー	小池岳太 (こいけ ぐくた)	社会体育学科4年	スタンディング(LW6/8)

●スタッフ

競技名/役職	名 前	所 属	所 属
本 部	岩坪 友子 (いわつば ともこ)	(財)日本障害者スポーツ協会	H13年健康学科卒業
ノルディックスキー・クロスカントリーコーチ	久保田祥子 (くぼた さちこ)	(財)上村病院健康増進施設あへず	H12年社会体育学科卒業
ノルディックスキー・クロスカントリーコーチ	小林 卓司 (こばやし たかし)	北海道小樽水産高等学校教諭	S55年体育学科卒業
日本パラリンピック委員会(JPC)役員	田中 信行 (たなか のぶゆき)	日本体育大学講師(社会福祉学研究室)	(財)日本障害者スポーツ協会科学委員会副委員長・JPC運営委員

※所属は2006年2月時点のものです。

●トリノ冬季パラリンピック 競技結果

スキーアルペン

男子ダウンヒル(カテゴリー:スタンディング)
小池 岳太 37位 1分31秒23

男子スーパー大回転(カテゴリー:スタンディング)
小池 岳太 44位 1分19秒59

男子大回転(カテゴリー:スタンディング)
小池 岳太 19位 1分58秒53

男子回転(カテゴリー:スタンディング)
小池 岳太 失格

トリノ冬季五輪に日体大から2人出場!!

冬季五輪史上最多の80カ国・地域から2573選手が参加し、イタリアの古都トリノで2月10日から開催されていた第20回冬季五輪大会は、26日に7日間の熱戦の幕を閉じた。7競技84種目が実施され、冬季スポーツとは縁の薄いアフリカや東南アジア等からも多くの選手が出場し、荒川選手の“イナバウアー”とともに話題になった。

日本は海外の冬季大会では最多の112選手を送ったが、荒川選手のみメダル1個だけで、目標の5個を大きく下回った。ソルトレック、トリノと、日本の冬季スポーツは不振を続け、強化策が検討されている。日体大からは、中嶋敬春・星瑞枝の両選手が参加したが、残念ながら思うような結果を残せなかった。参加した両選手からのメッセージを紹介したい。



スピードスケート男子500メートル＝オーバールンゴット(中嶋敬春) 写真提供・共同通信社



アルペン女子1回目＝セストリエール(星瑞枝) 写真提供・共同通信社

4年後には メダルを狙いに行きます!!

中嶋敬春 (日体大研究員)

1983年生まれ。私立佐久長聖高校出身。2005年3月体育学部体育学科卒業。現在、本学研究員。
大学1年時にW杯初出場、3年次にW杯初優勝(1,000m)を果たす。今回のトリノ冬季五輪はソルトレック2連続、2回目の五輪出場。好きな言葉は「努力に勝る天才は無し」

●トリノを終えた感想
目標としていた成績が残せずに不本意でしたが、終わった時はとてもホッとした気持ちになりました。緊張がイッキにとけて、気が抜けすぎた感じでした。

●競技成績に対する感想
4年前と比べ、応援席などを見渡せる余裕がありましたが、実際、レースになると途端に力が入り、スタートを失敗するなどレース内容・結果ともに自分のなかでは最悪でした。良い思い出が残らず、悔いばかりが残ります。

●次の目標・今後の取組み
次のバンクーバーオリンピックでメダルを狙いにいける位置まで成績を上げる。一年一年目標を掲げ、目標達成のために必要なトレーニングを積み上げていきたい。4年後にはメダルを狙いに行きます!!

●日体生へのメッセージ
自分で決めた道は最後まで貫き通して下さい。努力は必ず報われます。

日本人トップの成績は 次につながる。

星 瑞枝 (体育学科3年)

1985年生まれ。新潟県上越高校卒業。現在、体育学部体育学科3年生。
学友会スキー部所属。今回のトリノ冬季五輪をステップに4年後のバンクーバーを目指す。
<表紙を飾る>

●トリノを終えた感想
オリンピックという大舞台の雰囲気や存分に楽しめ、また大観衆の中で自分という存在をアピール出来て最高の気分でした。

●競技成績に対する感想
1本目で、初めて30位に残れたこと、その結果2本目に1番でスタート出来たこと、この2つは過去最高の結果です。そしてプレッシャーに負けず、結果は27位で日本人トップ。これらにつながる成績だと思います。

●次の目標・今後の取組み
このトリノを新たなスタートに、来年はW杯でも30位以内に多く食い込んでいけるよう、欧州杯でも常に10位以内をキープ出来るようにしたい。今夏は、精神面、体力・筋力面のトレーニングに重点を置き、強化していきたいと思います。

●日体生へのメッセージ
努力すれば、結果は必ずついてくるものだと思います。皆さんも、それぞれの夢・目標に向かって突っ走ってください。



高校スポーツの 頂点を極めた指導とは？

～主体性と自主的判断力の育成／個性・特性を引き出し伸ばす～

本年1月に開催された第85回全国高校ラグビー大会は伏見工高が優勝し、第84回全国高校サッカー選手権大会は野洲高が優勝したが、期せずしてどちらの監督も本学OBであった。「スクールウォーズ」のモデルとしても名高い山口良治前監督の跡を継いだ高崎利明・伏見工高ラグビー部監督は、5連覇を狙う強豪・啓光学園を破り、監督として2度目の優勝を果たし、恩師と優勝回数で肩を並べた。また、常に「日本の高校サッカーを変えたい」と公言してきた山本佳司・野洲高校サッカー部監督は、個人技中心の新しいサッカースタイルをつくりあげ、初優勝でその思いを実現して見せた。共に今の高校スポーツ界にあって新しい指導哲学で頂点を極めたお二人に、その指導哲学や指導方法、そして日体大時代の思い出などを語っていただいた。

指導哲学と育成法について

お二人とも全国優勝おめでとうございます。互いに公立校でありながらトップを極めた点ですが、学校スポーツはクラブチームとは異なり、リフト選手の育成や勝利至上主義だと走れず、教育者としての指導・スポーツの指導者としての両面があり難いと思います。はじめに、指導に当たり、一番大事にしているお二人の指導哲学のようなものからお聞きしたいのですが。

高崎 ●僕自身はラグビー競技の指導者というよりも教育者として位置づけられており、限られた練習時間の中で真面目に練習に取り組みむという、人格的に優れた生徒を育成することに重点を置いています。もちろん試合で勝利することも重要ですが、部活を通して人間の成長を重視し、伏見工ラグビー部の生徒が人格的に目標とされる人材であって欲しいと思っています。ですから、サッカーに関する指導はむしろ少なく、ヒントを与える程度です。山本 ●サッカーというのは存知の通り、インターナショナルなスポーツです。日本の教育の枠組みだけを考えて、指導を繰り返していくのは難しいと思っています。グラウンドに出れば、自由にプレーしろ、「ひめいけ」を持ってと言いがちですが、生徒指導で画的に校則を守らなくては行けないという難しい半面もあります。これまでの高校スポーツは、ある程度指導者が指示した通りに選手が動くような部分が多かったように思

個々のセールスポイントを
伸ばして規格外の魅力ある選手を
輩出したい。

第84回 全国高校サッカー選手権大会優勝監督

山本 佳司さん

Keiji Yamamoto
[1987年3月体育学科卒業]

第85回 全国高校ラグビー大会優勝監督

高崎 利明さん

Toshiaki Takasaki
[1985年3月体育学科卒業]

世界に通用するには
試合の流れを自分で判断できる
選手の育成が必要。

日体大時代の思い出と後輩へのメッセージ

「日体大に進学した理由がクラブの思い出、指導者を目指すようになったらいいですね。特に、山本さんは在学中はサッカーと無縁のレスリング部ですが、」

山本 ●高校の時に地元滋賀県で国体がありまして、レスリングが強化種目になったという中で半ば強引に始めていたんです。その後、日体大に進学し、レスリングを続けていたのですが、4年生の時、ケン体育大学・現ドイッスポーツ大学・ケルンに交換留学生として行ったのが人生の転機になりました。そこには、現在の日本サッカー協会の技術委員長である田嶋幸三さん、解説者の風間八宏さんなど、留学に来ていて、知り合い、一緒にサッカーの試合を観戦しながら感化されていまして、結局日本にはまだ存在しなかった、サッカー文化の香りがしたなもので、魅かれてしまい、サッカーの指導者を目指すことになったんです。



【Profile】

やまもと けいじ

1964年滋賀県甲賀市生まれ。
滋賀県立野洲高等学校教諭（保健体育）、同校サッカー部監督。
中学まではサッカー選手だったが、高校進学後、地元滋賀県で国体が開催されることからレスリングを始める。83年、日体大に入学後、レスリング部に所属。在学中の86年、ドイツ・ケルン大学（現ドイッスポーツ大学・ケルン）に留学。留学中に田嶋幸三氏（現日本サッカー協会技術委員長）らの知己を得てサッカー一筋の日々を送り、指導者を志すようになる。大学卒業後、故郷の滋賀で高校教諭に就き、サッカー部監督を務める。10年後の97年、野洲高校に就任し、サッカー部監督に就任。県大会初戦負けの弱小チームだった同部を育て上げ、03年、全国高校サッカー選手権大会に初出場。本年1月、2度目の出場から、「セクシーサッカー」と称される新しいサッカースタイルで初優勝を成し遂げる。03年、U-17の日本代表コーチに就任、常に世界を意識した指導を心掛けている。

うのですが、僕は生徒個人の主体的判断力を育てることを重要視して常に指導するようにしています。それがなければオリジニティーのある選手はできません。

高崎 ●まさにそれは同感ですね。私も型にはめ込むのではなく、選手の特長にあったスタイルを指導してあげることが何よりも大事だと思います。それこそ選手の特長、個性、能力を引き出すことにつながると思うのですが、試合の結果はそんなに大事ですが、選手がスポーツに触れることが「楽しい」なければ、またく意味がない。嫌な部活動が続けさせると何も残りません。

山本 ●ところで、今年の野洲高校の平均身長は168cm。これは自分でも言うのも何ですが、大型化が進む高校サッカー界では革命的なことだと思いませんか。それでも、「ドリブルだけなら絶対に負けない」とか、パスセンスだけなら100点という個々のセールスポイントを伸ばしてあげれば、十分に全国で戦えるチームは作れます。

「以前、山口先生・伏見工高ラグビー部前監督にインタビューした際、とにかく、選手を走らせたという指導法を聞いたのですが、当時とは気質も違う高校校生に対しては指導スタイルを変えざるを得ないと思うのですが、如何でしょうか。また、世界レベルの選手を育成するには何が大事でしょうか。」

高崎 ●もちろん、走って体力を付けることは大前提です。でも、今の生徒は「なぜ走る」が必要なのかという部分をしっかりと説明しないと納得しません。これは他の練習メニューでも同様です。そして何よりも自主性を持って練習に取り組ませています。

山本 ●高崎先生のごとも、日に2時間くらいしか練習出来ないとお聞きしますが、その短い練習の中でもきちんとした意識付けがないと無駄な練習になってしまいます。練習のための練習では、たいてい

高崎 ●僕は山口先生に勧められて、日体大に進学しました。最初は、すさまじい練習の噂を聞いていたのですが、嫌ななという思いもあつたのですが、やはり成り行きもあって受。その後、在学中には体育教員を目指す意識が高まりました。実業団に進学したラグビーを続ける選択もあつたのですが、やはり体育教員になる意欲が上回りました。

山本 ●クラブの思い出としては、とにかく、厳しい指導、合宿が思い出されます。当時、レスリングは、日本のおおきい時代で、レスリング部にはサンゼルス五輪やソウル五輪のメダリストなど、全国から、とてもない実力を持った連中が集まっていたから、レニングラド部から見ると、ラグビー部はとにかく女性にしている印象がありました。

高崎 ●いやいや、もてていたのは川合俊さんなにかがいた。部じゃないですか。まあ、とにかく練習は厳しく辛かったです。ラグビーも人気が出始めた頃でして、それを感じている暇もなかったらしい練習漬けの4年間でした。

「最後に、現役の日体大生にアドバイスをしていただきたいのですが。」

高崎 ●小さくならず、常に大きな視野を持っていて欲しいです。たくさん経験をして、自分の考え方に広がりを持ってもらいたい。限界点を設定すると、それで人間の成長は止まってしまう。常に前を向いて成長し続ける人を目指してもらいたい。

山本 ●僕も同意です。僕はドイツで留学することで、視野が広がったのだけでも、「流」を目指す。意識を高くする環境にいて持つべきもの。どんな職業に就いても、「流」を目指す。意識を持てば必ず人は大成できると思う。日体生はもとより、OBの境なのだから。

（3月6日、本学ラグビー部にて対談）



【Profile】

たかざき としあき

1962年京都市生まれ。
京都市立伏見工業高等学校教諭（保健体育）、同校ラグビー部監督。
高校時代、山口良治監督（本誌11号で紹介）のもと、同期の元全日本代表監督・平尾誠二氏とハーフバックス国でコンビを組み、高3の時に第60回全国高等学校ラグビーフットボール大会で伏見工初優勝を果たす。81年、日体大入学。ラグビー部に所属し、スクラム・ハーフとして活躍。大学卒業後、中学校の保健体育教諭として8年間、教壇に立ち、ラグビー部コーチに。98年、監督に就任。2年後の第80回大会で伏見工を8年ぶり3度目の優勝に導く。今年1月の第85回大会で監督として2度目の優勝を果たし、山口前監督と優勝回数で肩を並べた。高校日本代表監督を歴任。現在、U-17強化委員を務めるなど、若手選手の育成にも尽力している。

大学院の紹介

06

『NITTAIDA』に大学院紹介が始まり、今回で6回目を数えます。本号では1998年の大学院博士後期課程設置時より、日体大学院体育科学研究科幹事を務める谷金了正教授より、日体大学院の抱負と展望を述べていた。そのほか2005年度学位取得者の一覧と修了式の様子、最後にシリーズ連載している、研究施設からみた大学院における研究活動の6回目として遺伝子分析設備の紹介を掲載します。

1

大学院教育の課題と展望

大学院体育科学研究科幹事 谷金了正

文部科学省は21世紀の社会を知識基盤社会と位置づけ、その社会の担い手の養成を大学院に求めるとの方針を打ち出した。つまり、無条件でこの政策の転換は大学の学部教育を軽視するものではあるが、4年間の教育のみでは知識基盤社会の担い手の養成は難しいと判断によるものだと思います。その結果、さらなる教育と研究を行う場として大学院の拡充が企図され、さらに大学院を再編して、その機能を明確にするような改組を図ることが要請されるようになったと考えられます。そのついで博士後期課程を中心に研究の提点と形成し、先端的に国際的の学際をリードする研究ができるように改善を図る。研究大学院の推進です。また、他のついで研究の成果等を社会に還元する能力が身に付いた各種の職業分野の専門家を大学院博士前期・修士課程レベルで養成する専門職大学院の拡充です。体育科学領域に特化した本学の大学院は上記の研究大学院と専門職大学院の二つの機能を同時に抱えています。そのため、本学の大学院も機能分化を図り、その役割を明確にした教育と研究を推進する必要があります。また、本学の大学院にはまだ試案の段階ですが、次の視点をもって改善することが提案されています。

シリーズ

3

研究施設からみた大学院における研究活動その⑥ 遺伝子分析

大学院では日々体育スポーツに関する研究活動が展開されています。このシリーズでは本学大学院での研究活動にて使用される機器・設備を通して本学にて展開される研究活動を紹介いたします。第6回目は遺伝子分析です。

遺伝子分析 ～自分の体質を知り競技に生かす～

現在、多くの疾患や体格場合にあっては性格までもが遺伝子によって決定されるかのような記述を多く見かけます。スポーツパフォーマンスにおいても同様の研究が多くなされており、ある種の遺伝子と持久力能力との関係、あるいは発揮筋力との関係などが指摘されています。

遺伝子と個人の能力との関連性は複雑ですが、わかりやすい例としてアルコールに強い人と遺伝子の関係が挙げられます。アルコールの分解物であり、悪酔い、二酔いの原因となるアセトアルデヒドを分解するたんぱく質であるセトアルデヒド分解酵素は本来、その名のとおりアセトアルデヒドを分解する訳ですが、その



写真3-1 遺伝子増幅装置



写真3-2 DNA電気泳動装置

- (1) 学部と大学院の 質教育を図ること
- (2) 現行の大学院を研究大学院に特化すること
- (3) 保健体育、競技スポーツ(コーチ・トレーナー)、スポーツマネジメント等の指導者の養成のための専攻を有する専門(職)大学院修士課程を設置すること

この試案が実行に移されることになれば、本学の学生は最大9年間、学士・修士・修士博士の三種の学位(体育科)を取得できることとなります。これからの高等教育は大学院レベルまで延長して実施される時代を迎えています。したがって、大学院の定員増を図って多くの学生を誘う環境を、またも整備することこそ、本学が解決を急がねばならない直近の課題であるといわねばなりません。

氏名	所属学系	論文題目
金森 純	スポーツ文化・社会科学系	スラムを中心としたまちづくりに関する研究 ～埼玉スラム2002の周辺地区を事例に～
後藤 由一	スポーツ文化・社会科学系	現代スポーツとメディア マーケット・ハブの「メディア」にまつてアプローチ
藤 直人	スポーツ文化・社会科学系	中国におけるスポーツ産業の人的資源開発に関する現状と課題 北京体育大学管理學院における発展戦略
藤田 文治	スポーツ文化・社会科学系	日本職棒の歴史 一 その歴史文化的考察
茂木 安章	スポーツ文化・社会科学系	運動部活動指導者の指導方針と組織環境に及ぼす影響についての一考察 ～高等学校におけるバスケットボール部指導者を事例として～
木村あゆみ	スポーツ文化・社会科学系	総合型複合スポーツクラブにおける経営者の意識の確立と発展に関する研究 ～東京競艇を例として～
上野 敦史	トレーニング科学系	小学校高学年児童における自尊感情と運動有能感、身体的自己評価の関連について
王 虎	トレーニング科学系	ダルトン・ダルトンの運動能力について ～競技及び短距離走の比較に基いて～
大橋 晃	トレーニング科学系	オーバーヘッド・スイングにおける多様な練習の効果 ～練習スタイルによって～
小谷 実	トレーニング科学系	バスケ・フットボールにおけるパフォーマンスに関する研究 ～シュート位置とバウンドボール獲得の関連について～
張 卓士	トレーニング科学系	サッカーにおけるPK時の不安とその対処法に関する研究
中野 克雄	トレーニング科学系	ユニフォームの色がパフォーマンスに及ぼす影響に関する研究
堀籠 佳彦	トレーニング科学系	下肢血流量測定でのトレーニング前後に及ぼす4000歩の記録に及ぼす影響について
三浦 和彦	トレーニング科学系	ローイング動作中の身体動作の最適化とローイングの効率について ～競技レベルの異なる大学選手を対象として～
山田 勇一	トレーニング科学系	加圧・バインドの有効性に関する研究
原田 悠希	トレーニング科学系	スプリント・スタント・スライディング・ジャンプにおけるCK,ATP,PGFの代謝 ～各運動項目および競技シミュレーションによる検討～
谷田 拓真	トレーニング科学系	トランポリン競技におけるBody out についての研究
越前 大輔	トレーニング科学系	関節角度変化に伴う下半身三関節の運動特性 ～各関節の動きと筋活動との関係～
砂川 力也	トレーニング科学系	自転車こぎ運動における外側広筋の筋活動とVIT、LT及びOBLAとの関係について
天野 裕人	健康科学・スポーツ医学系	大学院上級修士(短期)の健康と運動及び運動機能との関係
伊藤 宏太	健康科学・スポーツ医学系	高校ラレー選手の手機能からみたボクシング特性について
鈴木 博之	健康科学・スポーツ医学系	野球選手における肩関節と肘関節および肩関節との関連性に関する研究 ～高校生・大学生の比較と動作解析を通して～
横野 隆介	健康科学・スポーツ医学系	高校アメリカンフットボール選手の手機能特性に関する研究
向本 敬洋	健康科学・スポーツ医学系	低強度・低速度のレジスタンス・トレーニングが高齢者の下肢筋力および身体組成に及ぼす影響
太田 早織	健康科学・スポーツ医学系	体育系大学ダンス部員のスポーツ傷害に関する研究 ～身体特性との関連性について～
佐藤 孝一	健康科学・スポーツ医学系	メソッドによる筋活動の相関性に関する研究 ～身体組成・心機能、代謝的・内分泌的変化～
高橋美紀子	健康科学・スポーツ医学系	バスケ・フットボールによる身体機能と運動外傷の発生要因に関する研究

氏名	所属学系	論文題目
江口 和美	トレーニング科学系	競技者の血漿系運動適応について
大川 昌宏	健康科学・スポーツ医学系	やわらかい足における体の調節と身体能力について
韓 一栄	健康科学・スポーツ医学系	身体組成および筋力の変化とパフォーマンスと歩行速度に関する研究 ～高齢女性に対する検討～

氏名	所属学系	論文題目
豊嶋 建良	健康科学・スポーツ医学系	THE RELATION BETWEEN BODY COMPOSITION AND PHYSICAL PERFORMANCE OF ATHLETES THROUGH BODY WEIGHT REDUCTION. BODY COMPOSITION ANALYSIS OF KARATE AND JUDO ATHLETES USING BIOELECTRICAL IMPEDANCE SPECTROSCOPY.
岩崎 弘志	健康科学・スポーツ医学系	体組成測定時の体組成測定精度に及ぼす食事の影響
新矢 博実	健康科学・スポーツ医学系	高強度下運動時の体組成測定精度に及ぼす食事の影響
増島 篤	健康科学・スポーツ医学系	スポーツ整形外科的メディカルチェックに関する研究
阿部 仁智	健康科学・スポーツ医学系	アメリカンフットボール選手のスプリントパフォーマンスに関する研究 ～競技前後に及ぼす体組成とパフォーマンスとの関係～



写真3-3 電気泳動の結果(分析結果)

AさんとBさんのACE遺伝子を分析した結果。AさんはI型とD型の両方、BさんはI型のみのACE遺伝子を持っている。したがってBさんの方が遺伝子的には持久的競技やトレーニングに適応が高いという結果になる。



の設計図である遺伝子の部が変化してしまっている人が、ある一定割合で存在します。その人のアセトアルデヒド分解酵素は設計図である遺伝子が変化しているため、その関連した設計図に従って作られたセトアルデヒド分解酵素はセトアルデヒドを分解することができません。この設計図である遺伝子を調べることにより、一般的なアレルに強いかどうかを判断することが可能になります。

数多くの遺伝子がスポーツパフォーマンスに関与すると考えられていますが、特に持久力との関連性が数多く指摘されています。その遺伝子のひとつはアセトアルデヒド変換酵素遺伝子ACEです。ACE遺伝子は配列の違によりI型とD型が存在することが知られており、I型を持つ人のほうが持久力が高い傾向があることが指摘されています。

遺伝子検査の方法は、綿棒を用いて口腔内からDNAを含む細胞を採取後、遺伝子増幅(写真3-1)および電気泳動(写真3-2)を行います。

2005年度学位取得者一覧と修了式

2

本学大学院は博士前期課程と博士後期課程を配しており、本年度は体育科学修士27人および体育科学博士8人が学位を取得しました。以下に論文の題目と取得者の一覧を示します。

学位記授与式は2006年3月10日(金)、東京世田谷キャンパスに挙行されました。

学位論文の内容が多岐にわたることからもわかるように、スポーツと健康に関わる幅広い分野での修士生の活躍が期待されています。

おわりに

本年度より日体大が大きな変革に望んでいくにあたり、最先端の研究・教育をリードしていくべき大学院への期待もより層々大きくなっています。体育・スポーツの世界で数多くの競技者や指導者を輩出し続けている本学は、大学院においてもその重責を受け止める必要を感じています。したがって、学部の教育面での貢献も考慮しながら大学院改革を進めていかねばならないと考えております。

下半期

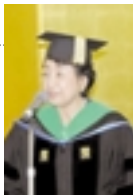
名誉博士学位記授与式挙行

平成17年11月22日(火)午後5時より、東京・世田谷キャンパス、深沢校舎・大会議室において、坂口電熱株式会社代表取締役社長坂口美代子氏に名誉博士学位記が授与された。

坂口氏は女性企業家として活躍するとともに、自ら設立した財団法人坂口国際育英奨学財団の理事長として外国からの留学生に対する支援を続けている。こうした内外にわたる貢献等が高く評価された。

◇坂口美代子氏 略歴◇

- ・東京都出身
- ・1947年 本学の前身、日本体育専門学校女子部本科を卒業埼玉県立鴻巣高等学校に赴任
- ・1948年 家業を継いで坂口電熱株式会社に入社
- ・1960年 同社代表取締役社長に就任
- ・1988年 坂口国際育英奨学財団を設立
- ・日本経営者団体連盟常任理事、財団法人日経連国際協励センター評議員、国立オリンピック記念青少年総合センター運営委員、生涯学習審議会委員など多数の役員等を歴任
- ・日本赤十字社から13回の表彰、厚生労働大臣から10回の感謝状授与、国から紺綬褒章を5回受賞
- ・2005年 渋沢栄一賞を受賞



(最前列中央 坂口美代子氏
右から2人目 伊藤孝学長)

平成18年度入試データ

(2006.3.24現在)

大学 体育学部		※() 内は女子内数 倍率＝受験者数÷合格者数				
区 分		志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体 育 学 科	推薦	484 (139)	484 (139)	419 (122)	416 (119)	1.2
	一般	1,820 (424)	1,795 (415)	533 (119)	342 (58)	3.4
	学科計	2,304 (563)	2,279 (554)	952 (241)	758 (177)	
健康 学 科	推薦	34 (26)	34 (26)	30 (23)	30 (23)	1.1
	一般	525 (185)	521 (184)	246 (72)	144 (51)	2.1
	学科計	559 (211)	555 (210)	276 (95)	174 (74)	
武 道 学 科	推薦	46 (11)	46 (11)	42 (11)	42 (11)	1.1
	一般	134 (37)	133 (36)	94 (29)	86 (25)	1.4
	学科計	180 (48)	179 (47)	136 (40)	128 (36)	
社会体育学科	推薦	36 (13)	36 (13)	32 (13)	32 (13)	1.1
	一般	828 (132)	822 (132)	324 (53)	134 (31)	2.5
	学科計	864 (145)	858 (145)	356 (66)	166 (44)	
合 計	推薦	600 (189)	600 (189)	523 (169)	520 (166)	1.1
	一般	3,907 (778)	3,271 (767)	1,197 (273)	706 (165)	2.7
	総合計	3,907 (967)	3,871 (956)	1,720 (442)	1,226 (331)	

※一般入試には帰国子女特別選抜を含む

■短大／体育科・幼児教育保育科

区 分		志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体 育 科	推 薦	142	142	95	88	1.5
	一 般	273	271	114	49	2.4
	科 計	415	413	209	137	
幼児教育保育科	推 薦	45	45	43	39	1.0
	一 般	46	38	19	13	2.0
	科 計	91	83	62	52	
合 計	推 薦	187	187	138	127	1.4
	一 般	319	309	133	62	2.3
	総 合 計	506	496	271	189	

■大学院体育科学研究科

区 分	博士前期課程					博士後期課程				
	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
スポーツ文化・社会体育学系	本 学	7 (0)	7 (0)	6 (0)	6 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	
	他 大	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	合 計	10 (1)	10 (1)	9 (1)	9 (1)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0
トレーニング科学系	本 学	37 (4)	36 (4)	20 (2)	20 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	
	他 大	6 (1)	6 (1)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	合 計	43 (5)	42 (5)	23 (2)	23 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	1.0
健康科学・スポーツ医科学系	本 学	11 (4)	11 (4)	9 (4)	8 (4)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0
	他 大	3 (1)	3 (1)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	合 計	14 (5)	14 (5)	11 (4)	10 (4)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0
合 計	本 学	55 (8)	54 (8)	35 (6)	34 (6)	9 (2)	8 (2)	8 (2)	7 (2)	
	他 大	12 (3)	12 (3)	8 (1)	8 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	合 計	67 (11)	66 (11)	43 (7)	42 (7)	9 (2)	8 (2)	8 (1)	7 (2)	1.0

「体育研究発表実演会」報告

2年に1度の「体育研究発表実演会」は『宙大～精神と身体未来～』をテーマに、第47回として東京大会をスタートに、今回は東海大会を静岡県・岐阜県・三重県・愛知県で実施された。

延べ入場者数は25,700名であった。同窓会の皆様をはじめ、多くの関係者にご協力いただきましたことに深く感謝いたします。なお、今回の開催は2007年が予定されている。

◆東京大会

平成17年11月12日(土)
【国立代々木競技場 第一体育館】
入場者数8,500名

◆東海大会

静岡県会場 平成17年12月17日(土)
【小笠山総合運動公園 エコアリーナ】
入場者数5,000名

岐阜県会場 平成17年12月18日(日)
【岐阜アリーナ】
入場者数1,700名

三重県会場 平成17年12月20日(火)
【三重県営サンアリーナ】
入場者数4,500名

愛知県会場 平成17年12月21日(水)
【愛知県体育館】
入場者数6,000名



■体育専攻科

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
19 (4)	17 (3)	17 (3)	16 (3)	1.0

■編入学

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
103 (97)	103 (97)	103 (97)	102 (96)	1.0

平成17年度「大学・短大卒業式」「専攻科修了式」「大学院学位記授与式」

平成18年3月10日(金)、東京・世田谷キャンパス深沢校舎第一体育館にて平成17年度「大学・短大卒業式」が行われ、大学体育学部1,285名、短大174名に学位記が授与された。午後からは、741教室にて「専攻科修了式」が、引き続き「大学院学位記授与式」が行われ、専攻科10名に修了証書が、大学院29名(前期課程26名、後期課程3名)に学位記が授与された。

箱根駅伝 総合9位 ご声援ありがとうございました。

平成18年1月2日(月)・3日(火)に「第82回東京箱根間往復大学駅伝競走」が行われ、本学陸上競技(駅伝)部は往路14位、復路3位、総合9位でゴールし、来年のシード権を確保した。応援していただきました皆様に、心から御礼申し上げます。

■出場選手およびタイム

() 内は学年

- 1区 舘見知彦 (3) 1:04:51
- 2区 保科光作 (3) 1:08:56
- 3区 永田 淳 (3) 1:06:40
- 4区 鶴留雄太 (3) 0:59:10
- 5区 北村 聡 (2) 1:21:36
- 6区 末吉 敏 (4) 0:59:49
- 7区 藤原 司 (2) 1:05:47
- 8区 高橋宏弥 (2) 1:06:49
- 9区 岩崎龍也 (4) 1:10:21
- 10区 熊本 剛 (4) 1:12:00

往路 14位5:41:13

復路 3位5:34:46

総合 9位11:15:59



10区熊本の激走



今年のゴール、来年へのスタート
(13区手町 伊藤孝学長)

小運動会「みんな集まれ!元気な子!」

幼児体育ゼミ

地域・社会貢献推進委員会企画の「学生による地域・社会貢献プロジェクト」で採択された小運動会「みんな集まれ!元気な子!」が、平成18年2月11日(土)に東京・世田谷キャンパスで行われた。昨年に続き2回目の実施。年間で一番寒い時期に親子で外に出て体を動かそうという趣旨に、48名の子ども達とお父さん、お母さんら家族が参加し、親子体操、手作りストラックアウト、綱引き、障害物競走を楽しんだ。



第39回 日体フェスティバル

日体フェスティバル実行委員会



平成17年11月4日(金)より11月6日(日)まで、横浜・健志台キャンパスにおいて「第39回日体フェスティバル」を開催した。

本年度は、清原伸彦実施委員長、中井実行委員長のもと、『融合(ゆうこう)〜精神(こころ)と身体(からだ)の未来(これから)〜』をテーマに掲げた。

本学学生(ダンス部・チアリーダー部・体操部・ダブルダッチサークル)と鳥歌界での第一人者、里アナさんのライブとの「融合」によるオープニングで幕を開けたフェスティバルは、続く「山本 KID 徳郁選手、山本聖子選手による、公開スパーリング&トークライブで一気に盛り上がりを見た。

今年は3日間のうち1日だけにメインイベントを持ってくるのではなく、どの日にちに来場してもメインイベントがあるように工夫をした。

2日目は「全日本キックボクシング連盟による国際公式試合全6試合」が開催された。

また、講演では株式会社アシックスフットウェア事業部から野口マネージャーを招き、実際に足の形を3Dで測定出来る機器を使用して、アシストの「足」と「適切なシューズ選び・使用方法」についてのお話をいただき、大変興味深い講演であった。

最終日は、山本寛斎さんによる「アポルタージュ行くぞ!!」の上映とトークショー、野外ステージでの楽しいライブで、エンディングを迎えた。

2日目のキックボクシングの公式試合は大学の学園祭では初の試みであったが、「number」や「格闘技通信」等のスポーツ雑誌、朝日新聞、神奈川新聞、西日本新聞、熊本日々新聞、南日本新聞等の新聞社、スカイパーフェクトTVによるテレビ放映、ネットメディア等で取り上げられた。また、実業格闘技界の著名人も多数観戦に来ていた。

そのほかにも、毎年恒例になっている野外ステージでのさまざまな企画、模擬店、フリーマーケットなど、各クラブの特色を生かした公開試合や公開練習、スポーツ教室にも多くの方々に参加していた。

最後に、日体フェスティバルを開催するにあたり、近隣住民の皆様をはじめ多くの関係者にご協力いただきましたことに深く感謝いたします。

嘉風関(大西雅継)が史上2位タイのスピード新入幕!

大相撲初場所の新番付(平成17年12月21日発表)で、本学出身の嘉風関(よしかぜ、本名:大西雅継、2004年武道学科卒業)の新入幕が決まった。初土俵から所要12場所での新入幕は史上2位タイの速さでの出世となった。

昨年6月、十両昇進が決まった嘉風関が、伊藤孝学長のもとに挨拶に訪れた矢先のスピード新入幕に、本学関係者から大きな喜びの声が上がった。

本学3年時にアマ横綱となった実力を持つ嘉風関は「早く有名になりたい」との意欲を新聞各紙で語っていた。

これで、垣添関(2001年武道学科卒業、武蔵川部屋)に次いで本学2人目の幕内力士となった。



嘉風関 伊藤孝学長(2005.6.1撮影)

嘉風 雅継(よしかぜ まさつぐ) 尾車部屋
本名:大西雅継、2004年体育学部武道学科卒業。
1982年生まれ、175cm、133kg、大分県立中津工高卒業。得意は突き押し。

「第16回リーダーズキャンプ」報告

平成18年3月13日(月)・14日(火)の1泊2日、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて「第16回リーダーズキャンプ」を開催した。

このリーダーズキャンプは、校友会総務委員会の運営のもと、年1回本学の校友会クラブ・サークルの代表者が集い、リーダーの育成と体育人としての意識向上を図る宿泊研修会である。本年度のテーマは『日体大の未来〜これから〜』。180名の学生がグループに別れ、活発な討議を行った。

1日目: 開会式、講演(スポーツ心理学 西條修光 教授)、親睦会、分科会、全体会
2日目: 朝会、講演(アテネ五輪アスリート競技銀メダリスト 山本 博氏)、分科会、全体会、閉会式



